

## ● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶  
 プライマースーパーE  
 グラナダ弾性 20kg/缶  
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤  
 基層塗り リシガン又はコテ  
 模様塗り リシガン又はコテ  
 模様付け クリークローラー (リブ幅8mm)  
 + 押えローラー

## ● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダ弾性	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り コテ塗り					
模様塗り	グラナダ弾性	20kg	1.6~1.8	1	-		リシガン 口径:6~8mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	配り塗り後、クリークローラーで横方向に起こし、更に、塗シンを付けた押えローラーで、意匠形成する。継ぎをずらしてムラに見えない様にする。						追っかけ 模様付け + 押えローラー
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-		直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-		24以上

## ● 標準施工要領

## 1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

## 2. 基層塗り

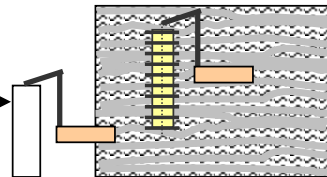
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

## 3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ② 主材は定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を凹凸吹き放しで吹き付ける。

## 4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、模様塗り後一旦クリークローラーで材料を起こし、さらに追っかけで、塗シンを付けた押えローラーで押えて意匠を形成する。
- ② パターンは、特に塗布量やクリークローラーの転がし重ね回数やランダムさなどにより仕上がりが感が異なるため、見本板などであらかじめ確認を行う。
- ③ 表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ クリークローラーは、横方向にほぼ平行にラインを起こし、且つ継ぎはランダムな位置で丁寧に行う。
- ⑥ クリークローラーは、時々水で洗い、水切して繰り返し使用する。
- ⑦ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



## 5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。